

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

今月のこのコラムは、12月11日にシャティンで行われたG1香港ヴァーズで、サトノクラウンを勝利に導いたジョアン・モレイラ騎手をご紹介したい。

前走のBCターフを含めてG1・4勝の実績を誇り、圧倒的1番人気に推されたハイランドリールがマイペースの逃げを打った。香港ヴァーズで、道中は中団後ろ目の内埒沿いで息を潜めていたのが、モレイラ騎乗のサトノクラウンだった。3コーナーから進出する気配を見せながら、ペースが上がると密集とともに仕掛けることはせず、冷静に情勢を見極めた上で、直線に向くと馬群の内から2頭目にできたスペースに馬を誘導。逃げ切りを図ろうとするハイランドリールをゴール寸前できつちりと差した競馬は、「マジックマン」と呼ばれるモレイラの手腕が存分に發揮されたレースだった。

1983年9月26日、ブラジル南部の大都市クリチバの近郊で、酪農を営む一家に生まれたモレイラは、子供の頃から裸馬を乗り回す毎日を過ごした。そこでなくとも豊かとは言えなかつた暮らしは、モレイラが7歳の時に父ジョアキンさんが癌で早世すると、赤貧を洗うまでになつたという。その頃から、厩舎まで出向くの習い騎手となるべく単身でサンパウロに

出たのが、14歳の時だった。

免許を得てから6か月の間に6勝しないと、免許をはく奪されてしまうという、ハイランドリールがマイペースの逃げを打った。香港ヴァーズで、道中は中団後ろ目の内埒沿いで息を潜めていたのが、モレイラ騎乗のサトノクラウンだった。3コーナーから進出する気配を見せながら、ペースが上がると密集とともに仕掛けることはせず、冷静に情勢を見極めた上で、直線に向くと馬群の内から2頭目にできたスペースに馬を誘導。逃げ切りを図ろうとするハイランドリールをゴール寸前できつちりと差した競馬は、「マジックマン」と呼ばれるモレイラの手腕が存分に發揮されたレースだった。

1983年9月26日、ブラジル南部の大都市クリチバの近郊で、酪農を営む一家に生まれたモレイラは、子供の頃から裸馬を乗り回す毎日を過ごした。そこでなくとも豊かとは言えなかつた暮らしは、モレイラが7歳の時に父ジョアキンさんが癌で早世すると、赤貧を洗うまでになつたという。その頃から、厩舎まで出向くの習い騎手となるべく単身でサンパウロに

出たのが、14歳の時だった。

免許を得てから6か月の間に6勝しないと、免許をはく奪されてしまうという、

ハイランドリールがマイペースの逃げを打つた。香港ヴァーズで、道中は中団後ろ目の内埒沿いで息を潜めていたのが、モレイラ騎乗のサトノクラウンだった。3コーナーから進出する気配を見せながら、ペースが上がると密集とともに仕掛けることはせず、冷静に情勢を見極めた上で、直線に向くと馬群の内から2頭目にできたスペースに馬を誘導。逃げ切りを図ろうとするハイランドリールをゴール寸前できつちりと差した競馬は、「マジックマン」と呼ばれるモレイラの手腕が存分に發揮されたレースだった。

1983年9月26日、ブラジル南部の大都市クリチバの近郊で、酪農を営む一家に生まれたモレイラは、子供の頃から裸馬を乗り回す毎日を過ごした。そこでなくとも豊かとは言えなかつた暮らしは、モレイラが7歳の時に父ジョアキンさんが癌で早世すると、赤貧を洗うまでになつたという。その頃から、厩舎まで出向くの習い騎手となるべく単身でサンパウロに

ランジで行われた開催で、9レース中8レースに騎乗。8レース全てで勝利する快挙を達成している。ちなみにモレイラ自身

にとって1日8勝は、06年3月にシダーデ

ジヤルダンでも達成している記録だつた。

13年10月に香港に移籍。2季目の14／15年に年間で145勝を挙げ、05／06年にダグラス・ホワイトがマークした

114勝を大幅に更新し、香港における

着処分を食らっているから、その騎手人生のスタートは最悪であった。

6か月という期限を迎えた最終日を4勝という成績で迎えた彼は、シダーデジ

ヤルダン競馬場の最終レースで、アーケテ

イックという小柄な牝馬に騎乗して鼻差

で勝利し、この日の2勝目をマーク。この

鼻差が逆の目に出ていたら、彼は騎手の

道を諦めてクリチバに帰つたといふか

ら、名手の命運は本当に紙一重のところ

でつながつたのだった。

その後、リーディングトレーナーのイヴ

アン・キンタナに起用されるようになって、

モレイラは出世への糸口を掴んだ。ブラジ

ルを中心で南米で1000以上の勝ち鞍

を挙げ、06／07年、07／08年と、2季連

続でブラジルのエクリップス賞を受賞。09

年にシンガポールに移籍し、2年目にリ

ーディングとなると、その座を4年にわたり守つた。ことに12年は年間で206勝

という、シンガポールにおける年間最多

勝記録を樹立。そして13年9月6日にク

る。

まさしく底辺から這い上がつてきた男のマジカルな手綱さばきは、これから多くの関係者とファンを魅了するはずであ

る。